

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800072		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	ファミリア小坂		
所在地	岐阜県下呂市小坂町坂下716-1		
自己評価作成日	令和4年2月20日	評価結果市町村受理日	令和4年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192800072-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和4年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当施設は廻りを自然に囲まれ、施設内畑で収穫できる四季折々の野菜なども豊富にあり、利用者様にも以前と変わりなく過ごして頂くことができます。また国道41号線沿と利便性にも優れています。職員は法人の理念を理解し、意識をもって日々の介護支援をしています。災害時には一時避難場所に指定されており、避難場所として地域の皆さまにも使用していただけるよう対応しております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、住民の福祉相談窓口としての役割も担いながら、地域に根差した事業運営を行っている。令和2年に地域周辺で発生した豪雨災害については、地域と話し合いながら連携強化に取り組んでいる。現在、コロナ禍にある為、家族との面会を制限しているが、家族と疎遠にならないよう、ビデオ通話を活用しながら、これまで以上に連絡を密にし、利用者と家族の安心感につなげている。また、外出が出来ない代わりに職員が室内活動を充実させ、身体機能低下予防と共に、利用者の笑顔を引き出しながら支援している。管理者は、職員の自主性と介護力を信頼し、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざす優しさ・安らぎ・信頼」という法人の理念を職員の名札に明記し、職員は理念を意識・共有し日々の介護サービスに努めている	理念の文言を目に付きやすい場所に掲示している。職員の名札裏にも明記し、常に理念に基づいた支援を行うよう意識化を図っている。また、職員は日頃のケアを個々に振り返り、全職員が統一した支援を行うことを基本に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ感染予防のため、施設に訪問はして頂けないが、毎月発行の広報誌を通じ様子を伝えたり、推進会議資料を役員の方に送り状況をお伝えしている	感染予防対策のため、現在は地域行事も中止になっており、来訪の自粛も依頼している。毎月発行しているホーム通信を自治会に送付し、地域の回覧板で住民に閲覧してもらうなど、つながりを継続できるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染予防のためのため、現在はできていないが認知症サポーターの有資格者が居り、活動を通じ理解を深め生かしていければと思う		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同理由にて、推進会議の開催は出来ていないが、2カ月毎に資料を全家族・地域役員・行政の方に送付している。また泊り利用が規定日数を超えたときなどは検討議事録を送付し理由・経過報告させて頂きGH入所に繋げた	現在、運営推進会議を書面開催とし、事前に資料を送付して意見を求め、議事録を関係者に送付したり、直接手渡している。コロナ禍での活動状況、利用者の状態、事故報告などを詳細に報告している。地域高齢者の現状についても意見交換を行いながら、地域との連携を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の方には報告・相談などし、指導していただいている。メールでコロナ対応などの厚生省や県・市の通知など随時連絡いただいている	行政からは、新型コロナウイルス感染予防対策、まん延防止対策などの通知が逐一メールで届いている。これまで以上に市担当者との連携を密にし必要な情報を運営に活かしている。災害についての詳細な情報提供もあり、防災体制などで協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で年に2回職員全員が学習する機会を設けている 身体拘束経過・再検討ミーティングを毎月開催し、廃止に向け見直しをし身体拘束しないケアを目指している 身体拘束適正化委員会を3カ月毎に開催し再度検討している	全職員が身体拘束について研修で学び、拘束の弊害も理解している。現在、止むを得ず、拘束対応の利用者があるが、現状と経過を報告し対応方法について、職員ミーティングで話し合っている。適正化委員会ですらに再検討を行い解除に向けて話し合っている。家族には説明と同意の手続き等、適切な対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で虐待防止を学び、どんな行為が虐待にあたるのかを周知し虐待しないケアを心がけている 施設内に虐待防止委員会を設置し防止・早期発見に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要な時に活用できるように学習する機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設の方針・内容を十分に説明し、利用者や家族が理解し納得されたうえで契約を交わしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染予防のため面会の機会は減っているが、随時連絡を取り、入居者様の要望を伝えたり、ご家族の希望に応じている	毎月発行の便り「おたっしや倶楽部」には、行事内容とコメント付き写真、利用者個々の暮らしぶりや健康状態を記載し、家族に送付している。また、制限付きではあるが、面会方法について詳細な案内を送り、感染対策を徹底した上で、パーテーション越しに実施し、家族の意見も聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在は職員会議が全体でできないが、グループホーム内で出た問題・意見をミーティング開催し施設長・管理者に伝え、問題解決につながるよう努めている	チームリーダーとケアマネジャーは、日頃から、課題点や提案等について、職員から意見を引き出せるよう心がけている。管理者も現場に入り、業務の中で職員の声を受け止め、職員会議の議題として挙げて検討している。また、資格取得支援や就業環境の整備に取り組み、職員のモチベーションアップにつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度より人事制度が導入され人事評価の際、管理者が個々に面談し、職員が努力したところやりがいを把握し、給与水準を上げる等向上心を持ち働けるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員には研修ファイルを作成し個々の対応について指導している 外での研修参加が困難であるため施設内研修は毎月レポートを提出することで確実に身に着くようしている web利用の研修もしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流はあまりできていない 同法人内の交流は頻回にあり、看護職・リハビリ職などの意見などによりサービスの向上に繋がるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して施設で生活できるよう、入所前に本人の情報や要望を聞き、信頼関係を築けるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が安心して施設に預けることができるよう、入所前に家族の情報や要望を聞き悩みや不安なことに耳を傾け、信頼関係を築けるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に本人・家族の必要としている支援を見極め、当施設だけでなく必要であれば他のサービス利用も念頭に置いて対応するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の人格・人間性等に配慮し介護者・被介護者という関係を超え、より良い関係を築けるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に支援しているという気持ちで、ご家族の意見を伺いながら、本人・ご家族・職員のより良い関係づくりに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防のため、ドライブでは馴染みある場所を車窓より眺めるのみだったが、昔話が出て楽しんで頂けた 地元の理容室に出張して頂いている 以前のように交流できる日を心待ちにしている	感染拡大状況を見ながら、場所や時間等の制限付きではあるが、家族との面会を実施している。ユニット間の交流は継続している。外出支援が難しく、車窓から景色を眺めるドライブ程度ではあるが、地元在住の職員と一緒に、地元の話題や思い出話で盛り上がるなど、気分転換に繋げることができている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係や個性を把握し、席順など配慮している 互いに良好な関係を気づけるよう支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院への入院・他施設転居の際は、環境が変化しても安心して暮らして頂けるよう、介護・看護サマリーを同意の上情報提供させていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望・意向を把握するため普段の会話などから思いを汲み取り、カンファレンス等で検討し、意向に添えるようにケアプランに盛り込んでいる	本人の意向や、これまでの生活歴から知り得た情報を参考に、利用者の得手不得手な事、利用者の思い等を把握し、職員間で共有している。把握が難しい人は、問いかけて反応を観察したり、表情から本人の思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の関わりの中で、在宅時の生活環境・暮らし方などをお聞きすることにより生活歴等を把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の能力に応じ、役割を持っていただいている 日誌等で職員が情報を共有し把握するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ感染予防のため参加していただけない、ご家族に要望・意向等確認後、カンファレンスを実施し様々な角度からの意見交換を行いケアプランを作成しと統一したケアができるようにし、モニタリングにてケア見直し・実施状況を確認している	ケアマネジャーは現場にも入っており、利用者一人ひとりの状態を把握している。担当職員からの情報と利用者、家族の意向を踏まえて、カンファレンスで話し合っている。課題点と具体的な支援内容を話し合い、介護計画を作成している。感染予防対策の為、家族には電話やメール等で、計画についての意向を確認している。	今は、新型コロナウイルス感染予防対策のため、家族参加でのサービス担当者会議は難しい状況である。収束後には、家族と日程を調整した上で参加を依頼し、チームとなって利用者の介護計画作りができることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は5W1Hを基本とし、様子・感情・発言なども記入できるよう努めている 職員間での情報共有、ケアの実施・見直しなどに生かせるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の現在の状況・要望等ニュースに対応できるよう検討し、柔軟な支援・サービスができるよう支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防のため、サロンやカフェなどの活用は出来ないが整髪には地元の理容師の方が訪問してくれる 包括支援センター・地域のケアマネ・民生委員の方々との支援・協力が入所相談などに繋がられている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医に家族と連携し定期的に受診し、変化に対しては必要な医療が受けられるよう連携している 急な発熱などにも、有料ではあるが送迎・受診付き添い支援もしている 施設医は月2回の訪問診療で対応している	契約時に、かかりつけ医は本人・家族が選択できることを説明している。従前のかかりつけ医への連携は家族対応としているが、急変時や家族の都合も配慮しながら支援している。母体法人の医療機関が協力医として月2回往診を行っている。職員として配置している看護師が、利用者の健康管理を行い、医療機関と連携を図りながら、利用者と家族の安心につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタル測定値・日中の体調の変化を見逃さず看護職に報告・相談し、受診に繋げ適切な処置・対応ができるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時の情報交換は看護・介護サマリーで行っている 退院時にALDの低下がある場合などは、退院前訪問をし様子を把握し、検討会を開催し対応できるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医と看護師により健康管理はしているが看取りはしていない 入所契約時【重度化した場合した場合の指針】により説明し、家族の意向を確認し望まれる支援をしている	重度化や終末期についての指針を契約時に説明し、利用者、家族の同意を得ている。利用者が重度化した場合は、早い段階で家族の意思を確認しながら、事業所で出来る支援について説明し、医療機関または、他施設への移転等を含めて、情報の提供も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命講習を受けている 職員研修で緊急時の対応を学び、実践に役立っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の災害時の避難訓練、消火訓練、通報訓練をしている 今期は新入社員を中心とし指導していただいた 当施設は地域の一時避難場所になっており連携も取れている	年2回、夜間想定を含めた火災訓練を行っている。近隣との協力体制も整い、運営推進会議で報告し助言を得ている。また、令和2年に地域で起こった豪雨による被災記録や行政発行のハザードマップで危険区域を再確認し、行政や地域住民との連携体制強化について話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ドア・カーテンの開閉には常に注意を払っている 一人一人の人格を尊重しプライバシーを損ねない対応・声掛けを心がけている 排泄の声掛けは周りに気を付けての声掛けを心がけている	利用者と長い関わりであっても、常に利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーを損ねない対応に努めている。入浴や排泄介助では、利用者の羞恥心に配慮して対応している。地元の方で利用者と会話をすることもあり、利用者の笑顔が見られたと家族にも喜ばれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを聞き取り希望に添えるよう支援できることがあれば対応している 業務の都合上対応できない場合もあるが、要望があれば可・不可にかかわらず職員間で共有している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ、否定はしない支援を心がけている 体調に留意しどのように過ごしたかを聞き取り、希望に添える支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の乱れや汚れ等気づき声掛けするように心がけている 自分で着替えができる方は選んでいただいている 女性の方は薄化粧でも喜ばれる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味噌汁は材料を切ることから味付けまでして頂き、手作りおやつなど飾り付けをお願いしている 行事・季節食など提供している 時節柄 黙食が基本ではあるが会話を楽しんでいる 食器の片付け・湯飲み洗い・台拭きなどお手伝いしていただいている	配食サービスを活用しながら、職員が調理している。また、畑で収穫した野菜で旬を味わえるよう、野菜作りも楽しんでいる。利用者も出来る範囲で食事作りに関わり、行事食やおやつ作りも楽しんでいる。現在もコロナ禍にある為、できるだけ対面での食事を避け、黙食を基本に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食・一口大・きざみ・ペーストなど個々の嚥下・咀嚼力に合わせた食事を提供しバランスよく栄養が摂取できるよう支援している 水分摂取量など個人記録に記入している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後口腔ケアを介助・支援している 歯科医により口腔内の点検、歯科衛生士の個々の状態に合わせたケアのポイント指導により清潔を保っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録により排泄パターン・状態を把握し声掛けにて自立支援パットの減数に取り組んでいる 訴えにて介助の方、自立の方など個々に添った支援をしている	トイレでの排泄が習慣となるよう、声掛けと誘導を行っている。布パンツの利用者には、今の状態を維持できるよう励ましながら支援している。また、個々の状態を把握し、適切な排泄用品を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・乳酸飲料の摂取や体操などの運動により自然な排泄を促す他に、排便リズムを把握し医師の指導のもと内服薬・座薬の使用にて便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	立位の安定している方は個浴にて週2回入浴されている 一人一人の希望の時間に入っていたいてはならないが午前入浴は喜ばれる チェア入浴も週2回安心してゆったり入浴されている	入浴は週2回としているが、利用者の状態に合わせて柔軟に対応している。本人が出来ることは、手を出し過ぎないように見守りに努め、難しい部分は介助しながら、個浴槽でゆっくりと楽しめるよう心がけている。季節の花や実を浮かべた湯を提供することもあり、安心安全な機械浴での支援もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	離・臥床介助の方は個々の状態に応じ休んで頂いている 自分で休まれる方は好きな時間・休みたいタイミングでされている 夜間は安心して休めるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬はほぼ一包化し、名入りのケースにて管理し、服薬確認をしている 状況により医師・看護師に相談し指示を受け症状の変化に対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節のイベントには行事計画をし、四季折々を楽しんで頂いている 夕食には安全に配慮しながら味噌汁作りをして頂き、役割を担って頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望は皆さまありますがコロナ感染予防のため自由な出入りは今のところ遠慮していただいている 病院受診・墓参りなど家族の協力ですて頂く方もおり外出支援に繋げている	以前は、買い物や喫茶店等に出掛けていたが、現在は外出を自粛しており、ドライブで車窓からの景観を眺めて気分転換を図っている。また、畑の野菜を見に行ったり、敷地内を散歩している。室内では体操やレクリエーション活動を増やし、身体機能低下予防を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出が制限されているため、お金を使う機会は減っている 施設内の自販機でジュースなどを購入される方もいる お金を持つことで安心感を持たれる方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎはは常時している 手紙のやり取りをされている方もある web面会も対応している 正月は居室担当者がそれぞれに年賀状を渡し、とても喜んでおられた		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁には季節に合わせ飾り付けをしている 食堂などは相性に合わせた組み合わせにするよう考慮している 室温・湿度には気を付け、心地よく過ごして頂けるようにしている 動線上は安全対策のため物を置かないよう気を付けている	ユニット間に仕切りを設けていたが、現在は2ユニットの共有空間として広く使い、室内活動を充実させている。窓が大きく、広い畑が一望でき、窓越しに野菜の生育を楽しむこともできる。室内奥まで明るい陽射しが入る共用スペースには、利用者の作品を飾り、適切な温湿度管理と整理整頓がされ、居心地の良い環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室が近いので独歩の方はご自分で戻れることもあるが、仲の良い方とゲームをして過ごされることが多い ソファで個別にCWに相談事をしたり、横になりくつろがれる方もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れたものをお持ちいただき、馴染みの物に囲まれ心地よくすごしていただくようにしている 居室は清潔かつ安全なスペースになるよう工夫し対策している	居室の窓は大きく、利用者は景色を眺めながら季節を感じることができる。ベッドと整理ダンスが備えてあり、お気に入りの小物や日用品等を持ち込むこともでき、整理整頓しながら、安全で居心地の良い居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具を活用し安全に移動できるように支援している 歩行器使用によりご自分でトイレに行くことも出来ている 動線上は安全対策をしている		